

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191200054		
法人名	株式会社 GAKUSAN		
事業所名	グループホーム のりこハウス		
所在地	北海道恵庭市駒場町6丁目1番1号		
自己評価作成日	令和7年2月1日	評価結果市町村受理日	令和7年3月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0191200054-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のりこハウスは1階に小規模多機能施設が併設されており、グループホームは2階に1ユニット9名の入居者様が生活しております。系列法人には“医療法人 緩和ケアクリニック・恵庭”があり、医師、看護師との連携が直ぐに取れること、また毎週の訪問診療による健康管理と定期的な会議も行っているなど、有事の際には早急に医療につなげる環境にあることが強みです。理学療法士からの指導により毎日の機能訓練に取り組みことにより身体機能の維持にも取り組んでおります。他にも協力医療機関として歯科医院とも提携しており定期的な歯科検診や、歯科医師・歯科衛生士による職員への指導もいただきながら日々の口腔ケアの支援も実践しています。これまで目的・目標として存在している理念や方針を今後職員へどう理解を深め実践しケアの質の向上につなげていくのか、ケアカンファレンスや研修を行いながら現在再構築に取り組んでいるところです。コロナが5類へと移行したこともあり、面会条件の緩和・外出支援、地域行事への参加なども今後実行していき、地域に向けてオープンな運営と活気のある生活支援に努めて参ります。基本となるケアプランについてご本人はもちろんご家族様とも直接お会いすることを重ねながらご本人主体のケアを提供して参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム のりこハウス」は、恵庭駅から車で5分程の場所に立地している1ユニット9名の事業所である。1階には同法人の小規模多機能事業所が併設されている。建物内は大きな窓に面した明るく開放感のある回廊式で、廊下の数か所にソファが置かれており利用者が好きな場所でゆっくり寛ぐことができる。居間や食堂には数多くの観葉植物や利用者の作品がさり気なく飾られ、家庭的な温もりが感じられる。今年度新たに着任した管理者を中心に全職員で利用者一人ひとりにしっかり向き合い、それぞれの利用者の思いにそった適切なケアを行っている。ケアマネジメントの面ではフェイスシートに趣味や嗜好などの情報を具体的に記録し、家族の思いや意向を聞き取りながら介護計画に反映させている。外出支援では花見や紅葉見学、道の駅へのドライブなど積極的に出かけている。日々、家庭的な献立で職員手作りの美味しい食事を提供するとともに、季節に応じて流しそうめんや鍋もの、寿司の出前を取るなど楽しく食事ができるように工夫している。管理者は、毎月個別面談を行って職員の悩みや意見、提案を聞き取りながら運営やケアに反映させ、働きやすい職場環境の整備に努めている。充実した医療支援の下、全職員で優しく丁寧なケアを行っており、安心して生活できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	5票	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	4票	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが			1票	2. 家族の2/3くらいと
		1票	3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
		2票	4. ほとんど掴んでいない			3票	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	4票	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		1票	2. 数日に1回程度ある			1票	2. 数日に1回程度
		1票	3. たまにある			3票	3. たまに
		2票	4. ほとんどない			4票	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	4票	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		2票	2. 利用者の2/3くらいが			2票	2. 少しずつ増えている
		1票	3. 利用者の1/3くらいが			6票	3. あまり増えていない
		1票	4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	4票	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	2票	1. ほぼ全ての職員が
		1票	2. 利用者の2/3くらいが			3票	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが			3票	3. 職員の1/3くらいが
		2票	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1票	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	2票	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			4票	2. 利用者の2/3くらいが
		2票	3. 利用者の1/3くらいが			1票	3. 利用者の1/3くらいが
		5票	4. ほとんどいない			1票	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	7票	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	3票	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			3票	2. 家族等の2/3くらいが
		1票	3. 利用者の1/3くらいが			2票	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	5票	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
		3票	3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の目にとまりやすい場所や、職員の名札、ご家族へのおたより、研修資料など様々な場面で理念に触れる機会を持ち、方針を共有し実践につなげるよう努めています。	事業所理念に「慈愛の気持ちをもって地域に役立つことを目指します」という、地域密着型サービスの意義を踏まえた文言がある。各職員は、名札やユニットに掲示している理念を確認しながら共有し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われている行事に足を運ぶことができました。開かれた運営を目標に、施設内の様子が分かる毎月のおたよりを回覧板で回していただけることになりました。	散歩で近隣住民と挨拶したり、町内会の運動会に参加している。実習生とゲームをしたり、装飾の制作をしている。来年度は事業所のお祭りを再開し、地域住民に参加を呼びかけたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、事業内容のご報告や内外の研修参加報告、発生事故内容などご報告と質疑に対してもお答えしています。近隣大学の実習生の受け入れも継続して行い、入居者様や職員も活気をいただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設している小規模多機能施設との合同開催により、閉鎖的になりがちな入居系施設以外の取り組みも共有できたり、提供するサービスの多様性を伝え、提供することができています。質疑応答にて意見交換も行っています。	小規模多機能事業所と合同で2か月ごとに開催している。テーマの設定は無く、事業所報告が中心となっている。家族と地域代表の参加が少ないため、交代で家族に参加を依頼することも考えている。会議案内と議事録は全家族に送付している。	会議案内にテーマを記載して参加できない家族の質問や意見を事前に聞き取り、会議に反映させるよう期待したい。また、地域役員の方にも、交代で参加してもらえるように継続して働きかけを行うよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に連絡を取り合ったり、運営推進会議等でご意見ご指導もいただいております。市内外の医療福祉関係の研修にも積極的に参加を進め、関係づくりに努めています。	管理者交代の挨拶や書類の提出などで市役所に出向いたり、新しい加算の内容について確認することもある。現在はメールでのやり取りが多くなっているが、いつでも相談できる関係を普段から築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながりやすい「不適切ケア」について、自施設の課題に焦点を当てた研修資料を作成しています。生活支援を行う上で陥りやすいスピーチロックについては更衣室に“言い換えの言葉”等を掲示しながら一人一人が日常的に意識できるように努めています。	マニュアルを整備して定期的に勉強会を開催しているが、実施記録と勉強会の資料が分かりやすく整備されているとはいえない。また、3か月ごとに開催している委員会議事録も全職員が確認した記録が不十分な面もある。玄関の鍵は夜間のみ施錠している。	身体拘束の勉強会の実施記録と資料を分かりやすく整備するよう期待したい。また、身体拘束委員会の内容を全職員で共有していることが分かるように、議事録に職員の確認欄などを整備するよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法改正により、虐待防止のための指針を整備しました。また、今後は事業所のホームページにも掲載するように進めていきます。委員会も設置し、研修資料は経験の浅いスタッフでも分かりやすい内容に努めています。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員への法廷研修については年間計画を立て、職員にも提示し計画に沿って職員研修が行われるように整備しています。計画に沿って外部研修にも参加していき、最新の情報を研修資料に反映させ、支援につなげていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階で可能な限りご見学する機会を作り、実際の生活のご様子を想像できるように配慮いたします。また、契約と解約時には十分な時間を設け、ひとつひとつご理解とご納得いただけるように図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アセスメントの際には必ずご本人の思いをお聞きます。また、ご面会やケアプランの説明時にはご家族からも聞き取りを重ね、情報共有を行いプランに反映、その後もサービスの提供が一体的に行える様に努めています。	面会時や電話、介護計画の更新時に意見や要望を聞き取り、介護記録に記録している。3月からはタブレット端末に記録を予定している。毎月「のりこハウス通信」と写真を載せた個別の手紙を家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の働き方と、入居者様へのサービスの提供の双方を両立できるように、カンファレンスや毎月の面談を通して職員にも意見を聞きながら業務内容の見直しを進めています。	管理者は、会議や普段の業務の中で職員と話をし意見や提案を聞き取っている。記録業務の軽減や休憩時間の確保に関して職員の意見を聞いて改善している。毎月個別面談を行い、悩みや資格取得の意向などに関しても聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在は休憩時間の確保や有給休暇の取得をメインとした職場環境の整備を進めている。今後は職員が自主的に考え行動しながらやりがいとなる環境をつくり、キャリアパスの推進にも力を入れながら給与にも反映していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	のりこハウスでの職歴の長短、介護経験が浅いスタッフの力量を把握・協力しながら、グループホーム職員として認知症ケアはもちろんのこと、身体介助の方法や楽しめるレクの提供方法など伝える機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することで関係構築に努めています。市内のGHネットワークにおける実際の交流は感染症対策により途絶えがちになっていますが、今後は情報共有にとどまらず、交流できる活動があれば積極的に参加します。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずはご家族様よりお困りごとや経緯などを伺い相談しながら、ご本人様と初めてお会いする場面や方法に配慮いたします。その後もご本人とご家族様の双方とお話する機会を設け、安心して過ごせるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やケアプランの説明時などには、必ずご家族様のご意見も聞かせていただき、家族目線での気持ちにも寄り添うように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	のりこハウスに入居後も、それまで行われていた継続したい生活習慣などをお聞きし、可能な限り寄り添える様に支援することに努めています。難しい内容であっても代替え案を考察しながら提案・対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、共同生活という空間の中で役割を持っていただくことの大切さを理解している反面、難しさも感じている。お一人お一人の能力を把握しながら臨機応変に活躍の場を設けて行くことに努めます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策で長く面会の制限を設けていたことにより、ご本人同様、ケアマネをはじめとする職員もご家族様と接する機会が減っていました。今後は直接お会いして話す場面を大切に、機会づくりに努めます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小さなお子様の面会も緩和し、ご希望があればご家族様に確認しながら、ご友人との面会も今後受け入れていく予定です。行事でなくても市内をドライブしながら住み慣れた町の景色を楽しんでもらえる様に支援して参ります。	感染症の流行や利用者の高齢化により、知人や友人との交流は少なくなっている。家族や親族が面会に来たり手紙が届く方もいる。家族と一緒に馴染みの美容室や自宅に出かけたり、法要に出席した利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うお仲間との楽しい時間はもちろんですが、時に不協和音となることもあります。職員が素早く介入しながら居心地の良い空間づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームでは、お看取りを行った末の退去となることが多いです。時折ご自宅に戻られたり、外出に自由のある所への移動を検討される場合があり、その際は後続の担当者へ引継ぎを行い、ご家族支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人のご意向を汲み取ることはもちろん、生活されている中で、入居者様の言動や表情、仕草の観察に努め理由を考えながら、暮らしやすい生活のスタイルを心身の状態変化に合わせ検討を重ね支援しています。	会話から思いや意向を把握できる方が多いが、難しい場合は表情や仕草などから把握している。センター方式シート(B-3)やフェイスシートに趣味や嗜好を具体的に記録し、3か月ごとに更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前任の担当者の方や、ご家族様より情報をいただくことで、生活歴の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前任の担当者の方や、ご家族様より情報をいただくことで、生活歴の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活状況からより良く暮らすための課題を見出し、現在の有する能力を維持できるような計画作成に努めています。	計画作成担当者を中心に評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。家族に評価と暫定計画を説明して意向を聞いている。今後は意向を具体的に確認したいと考えている。介護記録は、介護計画を意識して記録する方法を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録がどうしても不足しがちになっているため、職員に直接聞き取りを行いながら、情報収集をし、計画の見直しに活かしています。年度内に電子記録に移行予定です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまった決まりごとの中での対応が多いです。今後はご本人のその日の体調や気分、ご様子に合わせてのサービス提供を実現するために、チームケアに力を入れ、流動的に連携しながらサービスの質を確保していきます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院や理美容等、通いながれた場所を継続して利用することも可能なように入居時に選択をしていただいています。音楽療法のボランティアにもご協力いただきながら活気のある生活支援にも取り組んでいます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もご希望を聞き取りし、継続してご利用できるように、選択していただいている。また、系列法人のクリニックの医師は毎週足を運んでくださり、密に報告相談できる環境にあります。	月2回、協力医療機関の診察を受けているが、家族とかかりつけ医にも通院している方がいる。主治医の判断の下に専門医を受診する時は、健康状態を画面で渡している。受診状況は「医療機関受診記録」に個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、看護師が健康チェックに来てくださり、施設職員が気になることを報告相談できる環境にあり、早期対応につながっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時や入院後も病院の相談員とは適宜連絡を取り、ご家族とも状況収集を行いながら、早期退院に努めています。また地域の医療介護関係の集会にも積極的に参加しながら関係づくりの構築に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化の指針やお看取りの方針について説明を行っています。またその時がきましたら再度ご意向の確認、医師とのICの場を作り、職員とも情報共有しながら終末期ケアの提供を進めています。	利用開始時に「医療連携・重度化(看取り)」に関する指針」にそって説明し、家族と本人の看取りの意向も確認している。家族の意向に応じて看取りも実施しており、今年度も看取りを行っている。看取り研修も計画的に実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年は救命講習を受講しました。有事の際の連絡体制は日頃より伝えています。事故防止委員会の開催、感染症や食中毒に関する研修、またBCPの訓練として、年2回のうちの1回は感染症に関する訓練の場を設けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回行われている火災想定避難訓練を行うことにより、避難経路の把握、想定を共有することができています。	年2回、小規模多機能事業所と合同で昼夜の火災を想定した避難訓練を行い、内1回は消防署の協力を得ている。最近、地域住民の参加は得られていない。職員の救命講習を実施している。ケア別の個別対応についての再確認を予定している。	地域との協力体制を再確認するよう期待したい。また、以前避難訓練に参加した地域住民の方などに、再度訓練への参加を働きかけるよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な声掛けの一覧を職員ロッカーに掲示して意識してもらうように努めています。	接遇研修を行い、会議でスピーチロック等を取り上げている。申し送りは部屋番号を使用し、呼びかけは苗字に「さん」付けとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様は職員に気を遣うことなく思い思いに過ごしていただいていると感じています。が、自分の希望を職員へ伝えたりすることは少なく、また自己決定の促しの機会も少ないと感じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合の型にはめられたスケジュールで過ごしていただくことが多いと感じています。特に就寝の時間は19時と早めを感じています。日中は好きな時に休んでいただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアでは身だしなみについて職員が気にかけてくれています。お食事などで汚された衣類は適宜更衣の支援を行ってくれています。行事の際に、いつもと印象の違う服を着ていただくことなど配慮しています。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	行事の際には楽しめる食事を心がけています。また、入居者様お一人お一人に合わせた食事の提供を行っています。食材発注の傾向に偏りがみられています。片付けや盛り付けは入居者様と行っています。	一汁三菜を基本に職員が家庭的な献立を考え手作りしている。行事食のほか、誕生日メニューは本人の希望にそい提供している。寿司の出前を取ったり、流しそうめんや寿司パーティなど食に変化を付け楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手作りの調理法にこだわり、出来立ての食事が提供されています。献立がないため、栄養のかたよりの摂取カロリーの目安が体重の増減となっています。今後は系列法人の栄養士が立てた献立を参考に予定します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医院と医療連携を結び、適宜検診や治療、ブラッシング指導を行いながら職員も口腔内の清潔保持の介入を毎食後行っています。また月に1度職員を対象とした勉強会を歯科衛生士の方に行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜間の排泄パターンを記録や聞き取りから把握し、適切な下着、衛生用品の選定と支援に努めています。	自立している方も含め、排泄パターンを把握している。日中はトイレでの排泄を基本とし、事前誘導で布下着を使用している方もいる。夜間のみポータブルトイレの使用やベッド上での交換を行っている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬で調整していることが多いのが現状です。今後はリハビリ指導内容の機能訓練体操に毎日取り組んでいただきます。最近構成した給食委員会にも飲食物の工夫など議題に挙げていただき、便秘の予防に取り組んで参ります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に午前中に予定を立てていますが入居者様の体調や診療などに合わせながらスケジュールの変更は適宜柔軟に対応しています。マンツーマン対応や入浴剤の使用など、リラクゼーションの時間という意識を継続します。	日曜日以外は入浴が可能で、ひとり週2回を目安に支援している。シャワー浴を希望する方以外は湯船に浸かることができている。好みのシャンプーやボディソープを使用し、同性介助にも対応し、楽しい時となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人が自由に居室とフロアの行き来をされており、休息が取れています。夜間は概ね良眠されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様全員が薬局から居宅管理指導を受けていて、入居者様の心身の状況なども共有し、服薬の支援を受けています。いただいた内容についても職員に回覧し確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今現在は手先が器用であったり、自立度の高い方への支援が目立っている。今後は全員へまんべんなく楽しみの支援について考え、実行していきます。		

グループホーム のりこハウス

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	混雑を避けた場所の外出に制限はされているものの、雪がなければ外出支援を進めている。また、入居者様と施設職員のみでの外出であったが、今後は希望のご家族も同行できたらと思います。	季節の良い時期は事業所周辺や近隣の公園に散歩に出かけたり、外気浴を行っている。花見や紅葉狩りなど季節を楽しむドライブのほか、近郊の道の駅ではお茶やアイスクリームを楽しんでいる。今後も外出の機会を増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホームの金庫でお預かりし管理をしている。外出先では自立度に合わせてお財布からお金を出してお支払いいただくことも考えています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的な支援には至っておりませんが、ご希望があればお断りすることなく支援していく方針です。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い生活空間の中でも観葉植物を多く配置したり、過去に行われた写真も多く飾ってありさみしさを感じさせません。壁面飾りなどを一緒に作り、季節感を感じてもらえる様に工夫をしています。明るすぎない照明や、冷暖房設備もまんべんなく設置されており、過ごしやすい環境調整が行いやすい作りとなっています。	広い共用空間は回廊式で、冷暖房が完備されている。食堂兼居間は明るく、壁には利用者と一緒に作成した季節の装飾や作品が飾られ、コミュニティスペースの壁には外出行事の写真が掲示されている。各所にテーブルや椅子、ソファが配置され、多種の観葉植物もあり、思い思いに過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共同生活空間に数多くのソファやテーブルを配置し、思い思いに過ごしていただけるように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に合わせて、混乱しないシンプルな居室レイアウト、たくさんの写真に囲まれた室内、馴染みの家具を取り入れた居室環境などの工夫がされています。	居室入り口には消毒液を備え、感染対策を講じている。クローゼット、ベッド、ナースコールが備えられている室内に使い慣れた机や椅子、タンスなどを持ち込み、動線を確保し配置している。写真や仏壇など好みの物も持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造や、自室やトイレや衛生用品置き場の分かりやすい表記、お茶ボットの設置など、ご自分で見て考え行動できるように工夫されています。		